

連載

熱海市立図書館

100年のあゆみ

第3回 双柿舎からの寄贈資料①

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

熱海町立図書館に尽力した坪内逍遙は、別荘「双柿舎」を建立し、研究の傍ら熱海に関する歴史資料や地図などの収集に力を注ぎました。

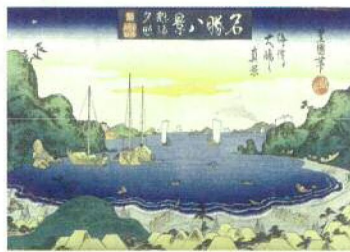
逍遙は昭和10年に逝去し、逍遙亡き後も双柿舎で資料の保管と整理に努めたセン夫人も昭和24年に逝去しました。その後、双柿舎は早稲田大学に寄贈されましたが、逍遙の遺品を整理していた同大学から「双柿舎」の名前で図書館に図書と歴史資料の寄贈がありました。

「図書台帳第三号」に記載されている248点に上る資料は、熱海の歴史を学ぶうえで貴重な品々であり、熱海に関する研究に大変役立っています。その中から、今回は、絵画と和綴の資料を紹介します。

・『名勝八景 熱海夕照』 二代目歌川豊國著

熱海を描いた浮世絵版画は、ポ-

ランド美術館所蔵の安藤広重の「豆州熱海湯治場之圖」と、この豊國の浮世絵が有名で、江戸期の熱海の様子を紹介する代表的な作品です。下町の家並（現在の銀座通り）を中心に熱海湾を一望にまとめた絵で、初島や大島、真鶴岬を構図に入れていいます。江戸や大阪に向かう千石船や地元の回船も描かれており、浜では漁師の地引網も描写されています。



▲名勝八景 熱海夕照

・『熱海名主代々手控抜書』

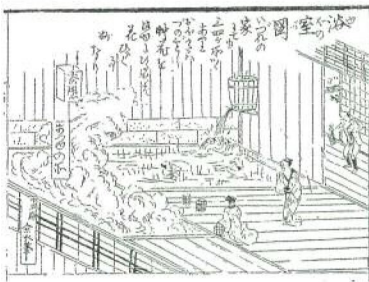
江戸時代から熱海で名主を務めていた今井家（今井半太夫）が、熱海に関する主要な出来事を抜き書きしたもので、幕府から熱海御殿の鍵を預かったことや、御汲み湯御用を勤めたこと、熱海の漁業権争いや葦山代官所への訴訟など、さまざまな事柄が書き記されていて、熱海研究に必読の資料です。

・『熱海日録』（昭和4年）人見泰著
熱海の湯治20日間で99回入湯し、持病の「血疾」を完治させたという

事例を紹介するなど、明和期の熱海の様子や入湯法を伝えていきます。

・『熱海温泉圖彙』（天保3年） 山東庵京山著

熱海温泉の由来や、温泉効能、浴方、産物などが紹介されている書物で、万巻上人の図や熱海七湯の絵を見るのも楽しいです。「湯あみの仕方」として、「七日間を一回りとし、初めはあまり熱きに入るべからず。入らんとする時、まず顔を注ぎ体を湿し……」と、1日目から7日目までの温泉の利用の方法を細かく示したり、「湯は玲滝（透き通っている）たる事、水晶の如し。大便通ぜざる人、一碗を喫すれば、快く通ずといふ」などと、温泉を飲むことで便通が良くなることも紹介されています。熱海温泉研究に最も利用されている書物です。



▲熱海温泉圖彙 浴室図

図書館では、これまでにこのコーナーに掲載された各種資料を展示しています。ぜひご来館ください。

投票率

熱海市長 齊藤 栄

市長メッセージ 90



熱海市ではこの4月に統一地方選挙として、県議会議員、市議会議員の選挙が行われました。気になるのは、それぞれの投票率が49・26%、56・06%と大変低かったことです。これは熱海市に限らず全国的な傾向のようですが、私は選挙というものは市民の意思を政治に反映させる大切なプロセスだと考えているので、政治に対する意識が低くなっているのではないかと、とても危惧しています。

投票率を上げるためには、地方議会に関心を持ってもらうことが大切です。以前、熱海市でも「子ども議会」が行われましたが、市民にとって市議会とは何をするとどうなるのかを知る良い機会であり、参加した小・中学生はその体験を一生覚えていくことでしょう。

また、行政としてもできることを考えなければなりません。例えば投票しやすい環境を整えることです。熱海市では高齢化が進んでいるため、投票所までの距離や階段の有無などが投票率に影響すると推察されます。また、期日前投票を充実させることも投票率アップにつながると思います。各地区にあるそれぞれの投票所について、今回の選挙結果を詳しく分析し対応策を考えたいと思います。私は地方自治の基本は「自分たちのまちは自分たちがつくる」ことだと考えていますが、自分たちの代表を決めるのが選挙です。行政も努力を行うとともに、市民の皆さんにも政治に関心を持ってもらいたいと思います。